

■分析と今後の指導上の工夫 1学年

○良好なもの ●課題が見られるもの

宇都宮市平均と比較し、特徴的であると思われる項目を本校の課題ととらえて分析した。

○「いろいろな教科の学習は将来のために大切である」と肯定的にとらえている生徒の割合が、市の平均と同じ程度か、市平均を上回っている教科が多い。生徒の興味・関心を生かし、学力向上につなげたい。

○いろいろな人にあいさつができたり、話し合い活動に進んで参加し、自分の考えを広めたりできている生徒が多い。今後も、自分の考えを深めたり、広められるよう授業等を通してコミュニケーション能力をつけさせたい。

○ルールやマナーなどしっかり守ろうとする規範意識が高い傾向がみられる。特に、朝自分で起き、夜は決まった時間に寝ている割合が市の平均を上回っている。よい生活習慣が身に付いている。家での過ごし方については、本や新聞を読んだりして地域や社会で起こっている問題に関心をもつよう指導していきたい。

○学習における授業への取組や学習に対する気持ちや態度などにおいて肯定的に高い割合を示している。一方、学習の仕方や家庭での学習の仕方など取組について肯定的な割合が低い。今後さらに「家庭学習の手引き」を活用するなど、授業内容の定着を図る学習の仕方を身に付けられるよう指導していきたい。

●「他のことに気をとられないで集中して学習できる」生徒の割合が59.6ポイントで市の平均を下回っている。本校の「学習のきまり」の1つでもある「話は目と心で聞こう」の態度に重点をおき、継続して学習規律の定着に取り組んでいきたい。

●家庭学習の時間について、「1時間以上行っている」生徒の肯定割合が68.3ポイントで宇都宮市の平均を下回っている。適切な宿題の出し方について工夫するとともに、保護者会等を利用して家庭学習の充実に向けての理解と協力を得て、学校と家庭が一体となった望ましい家庭学習習慣の定着に向けて取り組んでいきたい。また、宿題など提出することや期日を守ることの大切さを指導していきたい。